



第5学年 外国語科

Unit 5 「Where is the post office?」

～土佐清水市に来て間もないALTに、土佐清水市のことを知ってもらうために、おすすめの場所を紹介する～

<関係する領域別目標> 話すこと [発表] ウ

授業者

JTE 志村 留美 教諭
ALT Johnson Angelina Rose

単元を描く

授業提案

課題の所在

目的、場面や状況に応じて伝える力が十分でない。
▲これまで、限られた相手とのコミュニケーションが多かった。
既習表現を活用して伝えることが十分でない。
▲これまで、既習表現の場面設定が行えていなかった。

改善策

コミュニケーションの相手:土佐清水市に来たばかりのALTに設定。
ALTの好みや興味をもとに、相手意識のある言語活動へ。
目的を達成するためには、道案内だけでは足りないことに気付かせる。
既習表現である「できること」「自分の気持ち」を活用した言語活動へ。

重要!

児童の課題を自身の指導の課題と捉えることが大切

協議

(参加の先生方のご意見)



視点①【単元】

子供が課題意識を持ちながらゴールに向かうストーリーを描けているか。

- ・地図を使うと道案内の必要性はない。途中の目印と併せて詳しく伝えるために地図を使うなど、場面の設定が必要ではないか。
- ・子供は道案内するよりも、先に魅力を伝えたいのではないか。
- ・他校のALTなので、1時間目の出会いを大事にする必要がある。

視点②【本時】

子供が課題意識を持ち、「めあて」につなげるには、どのような手立てが必要か。

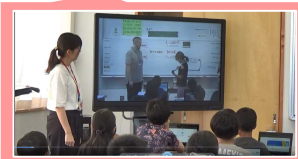
- ・「自分の道案内では、相手の興味を引くことができていない」と感じた時が、めあてにつなげるチャンスではないか。
- ・ALTに「興味をもてない」ではなく、「もっと知りたい」と言ってもらった方が意欲につながるのではないか。

単元構想

時間	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時(本時)	第7時	第8時
主な言語活動	土佐清水市にある建物や施設について伝え合う。	おすすめする場所が土佐清水市のどこの場所にあるかを伝え合う。	地図を使って、友達に道順を尋ねたり答えたりする。(複数の教材を活用)	地図を使って、おすすめする場所までの道順を友達と伝え合う。	新しく来たALTに地図を使っておすすめする場所までの道順を伝える。	土佐清水市のことを知ってもらうために、おすすめの場所について道順やその場所のできることなどについて友達や先生と話す。		新しく来たALTに、土佐清水市のことを知ってもらうために、おすすめする場所までの道順やその場所のできることなどを話す。

本時を描く

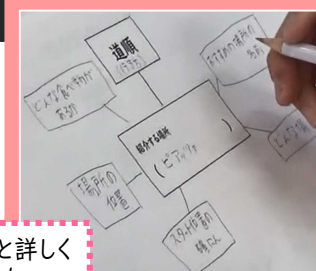
前時のALTへの発表を振り返り、めあてを設定



ALT

Thank you. I want to know more information.

もっと詳しく伝えたい



ペアで紹介し合う

児童A

I recommend "Puranto".
It's in Shimizugaoka.
It's a cafe.
It's menu...lunch.
Lunch is rice, うーん...
Start is the library.
Go straight for two blocks.
Turn right. (道案内が続く)

児童B

英語でどう言うかが分からない!
※詳細は、こちらへ

C:英語の言い方が分からなかった。
T:困ったことがあっただね。

中間指導

児童C

C 店の色を言いたい。
T なぜそれを言いたいの?
C 店を探しやすいから。
T みんな、何と言えばいい?
C It's color.
C It's store color.
C It's green.
ALT O.K. It's green.
※全員で練習→本人が言えるかを確認

児童D

T お店以外を紹介したい人もいいよね。
C 海がきれいでは?
T みんなどう?
C Beautiful.
ALT What's beautiful?
C It's beautiful.
※全員→本人

言語活動を再構築(内省)

児童E



ペアで

ぶつぶつ TIME

<児童による紹介後のやり取り>
T What can you eat?
C Ramen is great.
T What's number one menu?
C ちゃんぽん。 Good.
T Ok. I'm try! Thank you.

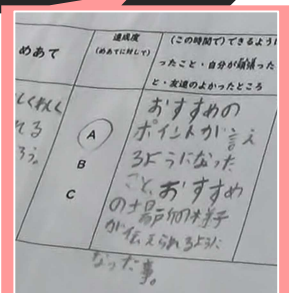
参観の先生に紹介する

中間指導

児童B

参観の先生に紹介する

振り返り



文部科学省初等中等教育局 直山 木綿子 視学官

子供が相手意識をもつためには?

重要! 言語活動を行う目的の深掘り

本時のめあて: もう少し詳しく伝えられるようになる。

●めあては、このくらい抽象的でもよい。詳しくすることを具体的にすると、子供の思考にならない。「詳しく」の内容は、子供が考えることである。

●ただし、言語活動の目的として設定した「土佐清水市について知ってもらうため」は、なぜなのか?『土佐清水市のことを好きになってもらうため』『土佐清水市に来てよかったな。』と思ってもらうためと深掘りすることが必要であった。

そうすると

●I don't like seafood.と言ったALTに対して、「ピザやラーメンを勧めるのではなく、「清水のシーフードは他と違うよ!」と紹介しようとしたのではないか。土佐清水市ならはのことへもっていく必要があった。それには、「詳しく」の中身を総合的な学習の時間など、他教科等で鍛え、結び付けることが大切である。

「話すこと」の文構造指導とは?

重要! 文発話を促すこと

T 何を加えたいの? [児童B] 目印、近くにある建物、メニュー。
T 聞きたいことがいっぱいあるね。(★受け止める)
近くにある建物って何? [児童B] 駄菓子屋。
T ああ。「駄菓子屋がある。」と言いたいんだね。
(★子供たちが英語に直しやすいように文にしてあげる。)
T 駄菓子屋ねえ... C Snack. C Snack store.
T 近くにあるって難しいね。でも前に歌でやったね?
ALT (ジェスチャーを見せる) C By. T "by"が使えるね。
T It's by the snack store.
※全員で練習→児童B本人が言えるかを確認する。
(★アウトプットさせて、言えるようにする。)

中間指導で、「どんなことを言いたいの?」と尋ねる場面では、以下のような指導が必要である。

●子供が単語で答えた時、教師は、子供たちと一緒に文表現に変換していく。

●子供が英語で表現するには難しい内容で答えた時、英語で表現しやすい言い方に変換していく。

★道案内と地図の関係について

<地図を使ったやり取りの場面って?>

- *「北京」レストランに行きたい。
- * 場所は分かっている。

Where am I?
Can I go there on foot?

案内は必要ない

<道案内をするのであれば?>

- 地図は使わずに行う。または、
- 大きな地図を使ってクイズ形式で行う。

例えば

C: I recommend my favorite spot.
You are here. Go straight for two blocks.
(道案内が続く) You can see it on your left.
ALT: This?
C: That's right. You can eat... (魅力を伝える)